

令和4年度 政務活動費 調査報告書

会派名	市政結和
議員名	南川達彦
調査実施年月日	令和4年6月5日（土）
調査先 自治体名等	北海道自治労会館
調査項目	ICT 機器の整備計画／校務情報化の推進
調査目的	ICT 機器を活用した先進的な教育の取り組み
報告内容	<p>研修内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末を活用した教育について <p>北海道札幌北高等学校 前田教諭、石狩市立双葉小学校 前多教諭、春日井市立高森台中学校（愛知県）校長から各学校のタブレット端末を使った教育についてセミナーを受講した。</p> <p>札幌北高等学校教諭のセミナーでは、大学入学共通テストに新たに情報という科目ができたことでの高校でどのように取り組んでいるのかということについて説明があった。北海道の高校では、BOYD（生徒所有）の端末を活用する方針であるため、取り組みが始まった当初は端末ごとに通信トラブルが発生し、安定して授業ができる環境を作るまでに時間がかかったことや新しい科目のため授業・指導内容の構築に時間がかかったこと、年間の授業時数では大学入学共通テストに必要な学習が不足するという課題があるとのことであった。また、BOYDのため各家庭負担が大きいこと、荷物の重量が増えることに学生から不満があるという課題もあった。</p> <p>石狩市立双葉小学校教諭のセミナーでは、前多教諭が務める双葉小学校での取り組みについてお話をされていた。双葉小学校では、前多教諭が ICT 担当を務めているが、すべての端末に関わる提案をするのではなく、まとめ役として各教諭が取り組むサポートを取る体制にしている。各教諭が取り組むきっかけを作るため GIGA SMILE PROJECT というプロジェクトチームを作り、タブレット端末の活用方法やルール、研修を検討し、全教員に共有している。月に1回 GIGA 研修も行い、ICT 活用の不安解消にも取り組んでいるとのことであった。その結果として、様々な学習場面で ICT 活用が進められ、こどもの学習意欲の改善や教員の多忙化の解消といった成果がみられていた。</p> <p>春日井市立高森台中学校（愛知県）校長のセミナーでは、中学校全体の取り組みとしてのお話をいただいた。春日井市は、全国的にも ICT 活用に早くから取り組まれており、高森台中学校での活用状況を紹介いただいたが、あらゆる授業でタブレットを活用していて、板書はほぼ無く、その時間を協同での学びや課題解決能力を高める授業に使うことで主体性のある教育につながれているとのことであった。主体性の事例として、タブレット端末を使って、全生徒へのアンケートを取り、集計した内容で生徒会活動の内容を決めていること、制服</p>

	<p>の変更のタイミングに合わせて、制服に関わる新しい校則を学生自ら検討していった取り組みを紹介された。</p> <p>また、教員側の ICT 活用のスキルも高く、授業中には問題の回答状況をリアルタイムで把握し、すぐに各児童に合わせた指導を行うことで取り残される児童の発生も少ないとのことであった。</p>
<p>感想（まとめ） 本市へ生かせること等</p>	<p>教育現場で ICT 機器を活用した授業を行っている教員の方から直接お話を聞くことができたのは大変有意義であった。</p> <p>特に教育での ICT 活用先進市として春日井市のタブレット端末の活用事例を聞いて、ICT 活用ができる環境とできない環境では、こどもの学習環境に大きな差が生まれてしまうと危機感を感じた。</p> <p>春日井市立高森台中学校の校長がお話の終わりに、ICT 活用を拓げるためには、間違いなく様々な障壁があり、教育に関わる方々の覚悟と胆力が求められると言われていた。ICT 機器の導入には多額の予算もかかり、機器使う教員の育成も必要であるが、何よりもこどもたちの将来のため、社会の変化に合わせた教育について議会も行政も覚悟を持って臨まなければならないと認識を新たにす良い機会となった。</p>